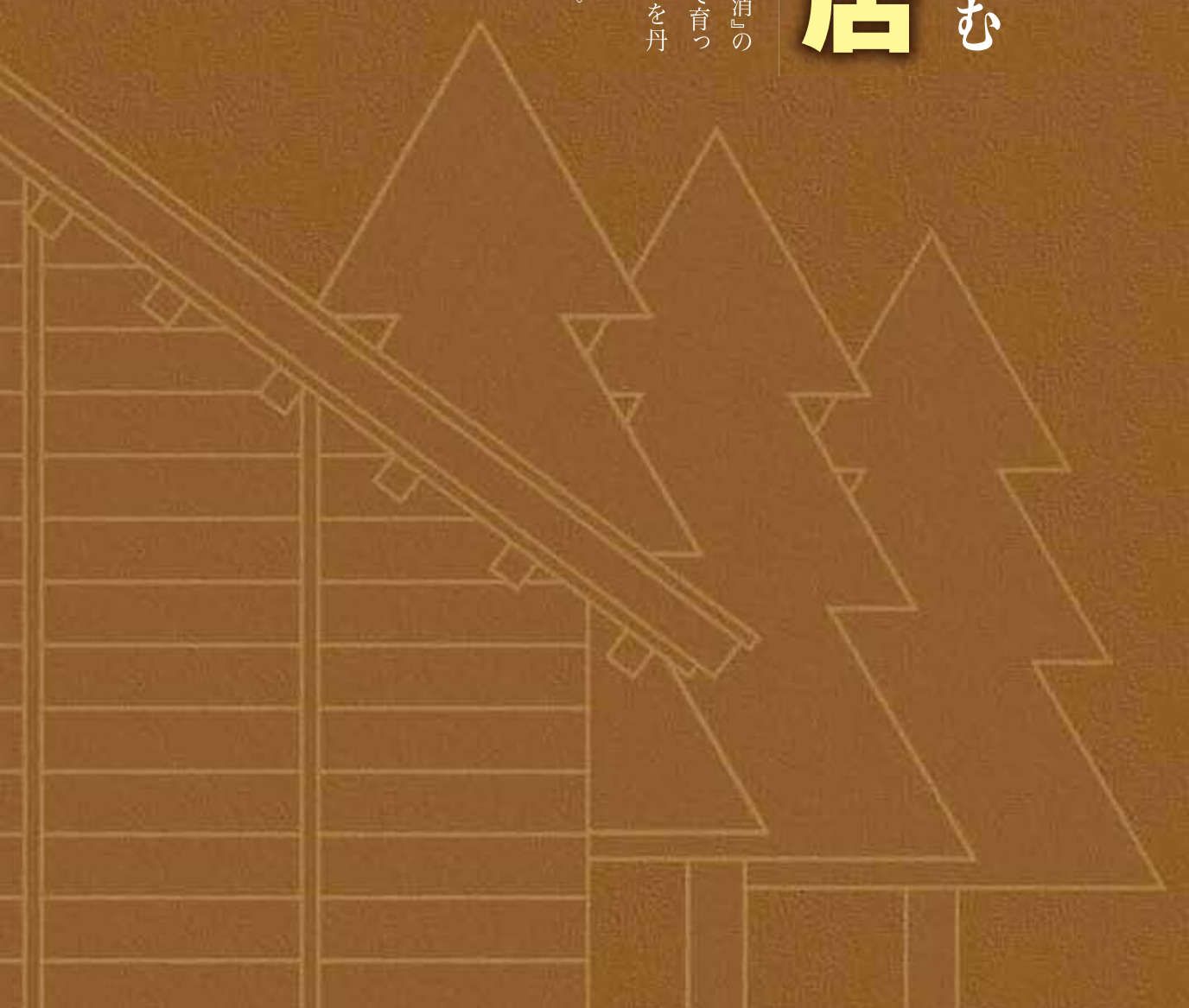


地産地消の
家づくりに取り組む

大工・工務店

青森県の山々から伐り出した木材を使用して、『地産地消』の家づくりに取り組んでいる人々があります。彼らは地元で育った木に愛情を注ぎ、頑ななまでの職人気質で、一軒の家を丹念に造り上げています。
そんな人々の姿を、施主の声を交えながらご紹介します。



稲見建築設計事務所

ユーザー訪問

弘前市早稲田
2010年12月竣工

角田 憲亮 様邸

DATA

- 延べ床面積／41.25坪(136.63㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台、フローリング、造作カウンター、建具)、スギ(柱、一部外壁)、アカマツ(梁)など。



風呂あがりに稲見さんトコの家見に行こう——語り口調のユニークな新聞広告に目が留まった。稲見建築設計事務所が開く完成見学会の広告である。このノリでいくと、今回ご紹介の角田憲亮(けんすけ)様邸はこうなる。『角田さんトコの家、構造材・仕上げ材は県産材を使つて、長期優良住宅なんだつて。あと、ヒートポンプを使つた輻射式暖房を採用してるから、おうちの中はあつたかくて快適なんだつて。もっともつとあるけど、ともかく読んでみて』。

プラン決めて現場見る 仕上げるに具体的ヒント

ご主人の話 自分の家づくりの体験を通して、あ、こうすればいいんだ、と実感したことがあります。それは、たとえばリビングの床をどういう仕上げにしたらいいか、というときに、他の家ではどうなっているのか



スギの板が敷き詰められた開放感のあるデッキ

なつて、問題意識を持つて完成見学会の会場を見に行くと、具体的なヒントが得られるとい

うことです。その前に間取りが決まっていなければなりません。もちろん、依頼する先(建築



ヒバのフローリングが心地よいリビングルーム

士とか工務店)もですね。私の場合は、稲見さん(稲見建築設計事務所の稲見公介一級建築士)にお願いすることにまず決め、それから何回も打ち合わせをしてプランをつくっていたできました。自分の家のプランが固まらないうちは何軒見ても漠然としていて、具体的に目に入ってきてません。

わが家のリビングの床にヒバを張ったのも、稲見さんの新築現場を見て決めたことなんですよ。その家は、床にヒバが張ってあって、木目の雰囲気がとても良かったんです。うちもこれにしようってね。1歳になる子供が床をハイハイして肌や口に触れてもヒバは自然素材ですから、結果オーライでした。正面の外壁にスギを張ったのも、見て決めたんです。

奥様の話 わたしの友



自然素材のヒバだから子供の口に触れても安心

だちが、稲見さんのご親戚だったんです。それで、稲見さんの現場を見に行く気になりました。わたしも主人も、建築中の家を見学したのはそのときが初めてだったんですが、まだ仕上げされていない、下地の合板が張られた室内がいかにも、現場という感じがして、新鮮な印象が残りましたね。それまでハウスメーカーの住宅展示場



脱衣室のヒバの床は、素足で歩くのが楽しくなりそう

は見えていたんですが、何か生活
 実感が伝わってこなかったのに
 対して、現場というのは、実際
 にそこで家族が暮らすわけ
 すから、実感がありましたね。
 その現場で、稲見さんと初めて
 お会いしたんです。

若い人に受け入れられる 県産材＋モダンな造り

ご主人の話 稲見さんのお話
 の中で印象に残ったのが、「若い

人に県産材を使ってもらうよ
 うな家の造り方をしている」と
 いうことでした。県産材の木の
 家——といえば、どっちかとい
 うと“和風”のイメージが強く
 て、ある程度年輩の層には受け
 入れられるんでしょうけど、若
 い世代は“モダン”を求めると
 思うんですよ。それで稲見さん
 はあえて「若い人」に受け入れ
 られる「県産材の家」を打ち出
 して、施主が要望すれば、床の



モダンなイメージで仕上げられた和室



電気代の節約に効果的なパネルヒーター

ヒバにも色を塗る。ヒバは絶対無塗装でなくちゃとこだわる大工職人もいるようですけど、稲見さんからすれば、「板の表面に化粧するかしないかの違いだけで、空間の住環境の観点からみれば何ら影響はない」となるのです。

あくまでも稲見さんはライフサイクルCO2の低減に重点を置いて「家」というものをとらえているんですね。安心して

お任せしようと思った信頼感、は、そういうブレない信念からくるのでしょうか。

奥様の話 家が完成(2010年12月)してから豪雪の冬、猛暑続きの夏を体験しましたけど、パネルヒーターの暖房も冷房も、実際に使ってみて電気代の安さにびっくりでした。厳冬の8月もたったの1万円でした。住環境だけでなく、経済環

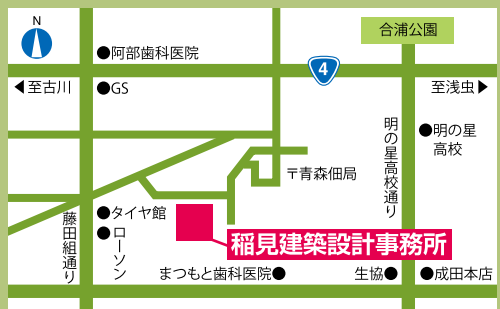
境も快適です。

稲見建築士の話 角田様のお宅はCASBEE(キャスビー)のSランク住宅です。CASBEEとは、建築物の環境性能を評価するシステムです。地球環境や周辺環境にいかに対応しているか、ランニングコストに無駄はないか、利用者にとって快適か——などの性能を客観的に評価するために使われているもので、最も評価が高いSランク住宅は、国の定める次世代省エネルギー基準より30パーセントもCO2が削減できる住宅なのです。角田様邸だけでなく、「稲見の標準」として全部の住宅にその性能を備えています。

地球環境があつて、周辺の地域環境があり、人が暮らす住環境があります。地域環境を良くする森林整備に結びつく県産材使用にこだわるのはそのためです。県産材と住環境を組み合わせた家づくりのさらなるレベルアップを図っていきます。

Architecture Design Office **INAMI**

稲見建築設計事務所
青森市佃1-5-7
TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
http://www.a173.org
E-mail: staff@a173.org



有限会社 岩木建設

ユーザー訪問

上北郡七戸町字森ノ下
2011年9月竣工

天間 様邸

DATA

- 延べ床面積／38.00坪(125.87㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台、一部内壁)、アカマツ(登り梁)、ケヤキ(玄関式台、階段)、スギ(柱、梁、一部内壁)、クリ(下屋の独立柱)など。



吹き抜けの窓を通して、庭のある南側から陽光が明るくリビングに射し込んでいます。床はスギ、壁もスギ、現わしの梁もスギで、天井の登り梁はアカマツと、県産材に囲まれた木の家の天間様邸。陽を浴びた無垢の木肌が柔らかな住空間をつくり出している室内へ、お客様を招き入れる場所が、玄関の「土間」である。そこから、正面に建つ木製の飾り棚に張られたガラス越しに、リビング内が見える開放的な造りにしたのは、ご夫婦の「もてなしの心」だ。リビングに据えられた薪ストーブも、炎を燃え上がらせて歓待してくれる。

薪ストーブある展示場 「縁」引き寄せたラジオ

ご主人の話 休日になると、五所川原市の社宅から七戸の家に車でやってきて、その日のうちに帰るといふ生活を送っていました。定年前に家を建て替え



木の温もりをかもしだす木製の飾り棚

でも、行ったり来たりが続くので、建てるのはまだ先だったんですが、日帰りだと庭の草取り

をしているうちにもすぐに時間がきちゃうし、それに、都会で暮らしている娘たちが盆や



小上がりの下に設けられた収納スペース

正月に帰りたいのは生まれ育った七戸であって社宅ではないわけだから、そう考えているうちに、だんだんと建て替え時期が前倒しされてきたわけです。

奥様の話 薪ストーブのある展示場が完成した——と主人から聞いたのは、そんなときでした。運転中に、カーラジオから、「薪ストーブ……」と聞こえたそうなんです。展示場オープ

ンのコマージュだったんですけど、主人には「薪ストーブ」しか聞こえなかったんですね。建て替える家は「薪ストーブのある家」って決めていましたから、耳が敏感になっていたのでしょ

う。

さっそく休日に、十和田市の住宅展示場へ見学に行ってみました。そこが岩木建設の展示場だったんです。中へ入ったら、床も木、内壁も木、天井も木。木に囲まれたリビングで燃える薪ストーブがイメージにピッタリでしたね。そのときに対応してくれた岩木（勝志）社長も専務さん（奥様）も、木の家に似合う暖かな雰囲気をお持ちのご夫婦だったこともあって、展示場も岩木建設もすっかり気に入ってしまいました。ラジオが縁を引き寄せてくれたんですね。

ご主人の話 もともとアウトドアが好きで、焚き火に親しんでましたから、薪ストーブに惹かれたのは自然の流れでしょ。



明るい陽射しが射し込む開放感あふれる吹抜けのリビング



リビングに面した土間は飾り棚が備え付けられ、お客様を招き入れる“もてなしの心”にあふれている



天間家のシンボルの薪ストーブ

た。シーズンになって、ホームセ
ンターの店頭で展示され出し
た薪ストーブを、とりあえずは
眺めるだけのつもりで出かけて
行ったら、思いがけない展開が
待っていたんです。

「このストーブ、あつたまらない
よ」

鋳物製のストーブを眺めて
いると、いきなりそばから声を
かけられました。見知らぬご年
輩の男性でした。話を聞けば、
薪ストーブを買ったものの、火
を点けてもすぐに部屋が暖ま

らないのだそうです。

「使っていないから、使うなら、あ
げる」

と、いきなりまたそう言われ
て面喰いました。いくらなんで
も初対面の人にすぐ「ほしい」
というものはばかられて、いつ
たんはそこで別れたんです。で
も、新品のストーブを使ってい
ないのはもったいない話ですか
ら、ご厚意に甘えて頂戴するこ
とにして、店内へ引き返した
ら、さつきの人がいました。
「じゃ、車でついてきて」

すぐにそういうことになっ
て、その人の自宅まで薪ストー
ブをもらいに行くことになっ
たんです。これもまた思わぬ展開

でした。
奥様の話 七戸の家にはFF
ストーブが付いていて、それが
主な暖房でしたから、暖まると



床や壁に県産材がふんだんに使用されている

いうことよりも、目的は火です。
炎が楽しめれば良かったんで
す。頂戴した新品同様のストー
ブは薪がよく燃えました。休日
に帰っては炎を眺めましたし、
仲間を呼んでスルメを焼いたり
しているうちに主人はすっかり
ストーブにはまってしまって、薪
を調達する山まで買っちゃいま
した。このストーブと出合った
ことで、建て替え時期が急に早
まることになったんですよ。

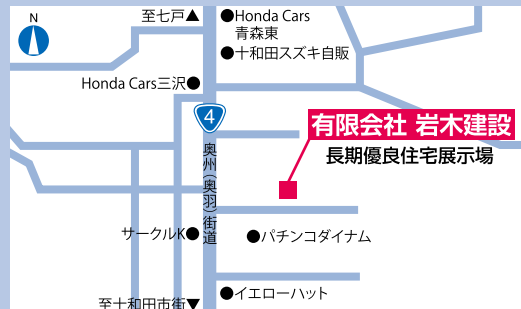
ご主人の話 展示場を拝見し
たときに気に入ったのが、玄関
前の「下屋」でした。わが家では
庭側に付けていただきました。
軒の出幅が1間(約1・8メー
トル)もあるので、陽射しを遮っ
てくれるし、外壁に直接雨があ
たらないので傷まない、と岩木
社長が話していたとおりに実
際重宝なものです。
奥様の話 新しい家での正月
休みを楽しみに帰ってくる娘た
ちを、今まで社宅で我慢しても
らっていた分、薪をうんと燃や
して歓迎しますよ。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

■第4回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞



地産地消に取り組む
大工・工務店

03

有限会社 岩渕建築工務所

常設展示場

五所川原市姥蒨字菖蒲3-6
2011年3月オープン

「エルムECOタウン」常設展示場

DATA

- 延べ床面積／47.37坪(158.37㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱)、マツ(梁)など。



住宅展示場の構造材 県産材使い地産地消

岩渕司専務の話 「県産材の家」というと、和風住宅のイメージが強いような気がしますが。外壁が板張りで、廊下の床も部屋の床も板、天井も板、といったような昔の家のイメージですね。お客様の反応からも、皆さん、そのようなイメージを抱いているようです。

和風、洋風で分けるとしたら、当社の家づくりは、この展示場のように、洋風です。外壁にも、床にも、吹き抜けの梁にも、つまり「目に見える」部分には県産材は使っていません。和室も床は畳を敷いていますが、壁や天井はクロス張りといった現代和風の造りが多いです。

それでも、今、地元工務店に求められているのは木材の地産地消ですから、家の躯体をつくる構造材には、県産材をふんだんに使っています。県産材を使っているのだから、「県産材の



和風モダンの雰囲気をかもしだす和室



小上がりとキッチンがひと続きになった、デザイン性の高い広々としたリビングルーム



冬でもバーベキューが可能なリビングルームにつながる三和土スペース

家」ということにはなるのでしようが、それがそのまま「岩淵建築工務所の家」にはならないと考えます。なぜかといえますと、床に無垢材の板を張ったり、天井に梁を表わしにして架けたりしても、そうした造りが、当社のイメージにふさわし

くなければ、他社の垂流にすぎないからです。

新築を計画されているお客様は、自分のイメージに合う家づくりをしている大工や工務店を探して、展示場とか完成見学会を訪れているはずですが、そういうお客様に対して、当社の

家づくりはこうです、と強く特徴を打ち出さなければなりません。真似ではダメです。独自性です。それを、お客様はその工務店のイメージとして受け止めるのです。

当社で家を建てていただくお客様のほとんどは30代です。30代から40代前半までの若夫婦ですね。そういう年齢層のお客様にとって関心が高いのは「デザイン」です。お客様の方から、県産材のことを聞いてくると



ブランコやぶら下がり遊具など楽しい仕掛けが満載の子供室



だ少ないのが実情です。逆に言いますと、当社に県産材の家づくりを求めてこられる方は少ないということですね。

津軽地方では、家に使う木といえばヒバです。スギはなかなか受け入れられません。これもまた現状です。ヒバは、青森県の銘木として全国に知れ渡るだけの価値ある優れた樹木ですが、青森県の山にあるのももちろんヒバだけではありません。スギ、ケヤキ、アカマツ、クリなど家1軒建てるのに必要な

樹種がそろっています。豊富にあるそれらの樹木を比較するのではなく、それぞれの特性を生かして、適した所に使えばいいと思うのです。たとえば、スギは柔らかいから床に使えばキズが付きやすいけど、反面、冬場は素足でも木の表面があたたかいという良さがある、といった具合にね。そういうふう

に工務店サイドがアピールすれば、納得するのではないのでしょうか。

事実、部屋の内装に羽目板を張れば雰囲気が出ますよ、って提案したら、腰壁に張った方もいます。誰にでも奨めるのではなく、あくまでもその家全体の雰囲気から木を張った方がいいと思われる場合は、ですね。

小上がりの畳の床下 広い収納スペースに

展示場とは、住まい方、使い方などを提案する場だと考えています。その提案を気に入ったお客様は、新築する自宅に採



女性のお客様に大人気の小上がりの下に設けられた収納スペース

用します。この展示場で人気がある提案は、リビング・ダイニングにある小上がりの床下の収納です。畳を持ち上げれば床下全体が収納スペースになります。フタが畳一枚分ありますので、大きな物でも出し入れし

やすく、基礎の下端(したば)まで深く下げて取っておりますので、大きめの物の収納に便利で、焼き肉に使う道具や炭なども収納しておけます。当社が提案する一つの「収納のかたち」なんです。

もう一つあります。2階の主寝室の床下にも収納を設けています。その下の、1階の和室を低くしてあるのはその収納スペースを確保するためです。床一杯を使える収納は女性たちに大人気ですよ。

ここ「エルム ECOタウン」に展示場を構えているのは、みな地元の仕事店です。五所川原市とか鶴田町とかの奥津軽エリアですね。地元工務店のこれらを担う、2代目、3代目のわれわれ(中学や高校の同期生たちなんです)が、若い力を結集させて実現させました。初代社長、つまりわれわれの父親の時代は、それぞれが一家一城の主で、他社はすなわち商売仇ですから、互いに張り合ってきたのですが、もうそれは昔のことです。今の時代は1社1社の力を結集させた方が、その分、その地域においては大きな力になるはずですから。

そう意見が一致して、エルム ECOタウンとして五所川原市のエルムのそばの団地に合同でオープンさせたが第1弾。ここは第2弾で、来年(2012年)3月まで展示し、その間に希望者に売却します。第3弾も、地理的条件の良い土地が確保できれば同じ形態でまた展示場を建てる予定です。

第3弾の展示場で、どんな提案をするか、楽しみにしてください。

有限会社 岩淵建築工務所

五所川原市姥苅桜木270-1
TEL.0173-35-6345 FAX.0173-35-6359
E-mail : buchikenhome@gray.plala.or.jp



梅田建設

ユーザー訪問

青森市油川
2011年8月竣工

M様邸

DATA

- 延べ床面積／47.00坪(155.68㎡)
- 使用青森県産材／天然青森ヒバ無垢材



梅田建設の倉庫は、ヒバ材の“宝庫”である。新築する家に使うヒバ材を常に倉庫内に確保している。清々しいヒバの香りに満ちたその倉庫内で、丸太や角材、平材などを何年も寝かせて天然乾燥させているのだ。じっくりとよく乾かし、それから表面に修正の鉋(かんな)がけをするので、木目が美しく、木肌がなめらかで、建てたあとに狂いが生じない。津軽の山々から伐り出した100年物、200年物の青森ヒバに頑固一徹こだわる大工職人が建てた一軒が、M様邸である。

**倉庫内に常にヒバ確保
何年も寝かせ自然乾燥**

ご主人の話 家を建てるならヒバ。建ててもらったのは梅田建設——昔からそう決めていました。梅田さん以外に頼もうと思ったこともありませんし、他社の展示場や完成見学会を見に行ったこともありません。



青森ヒバでしつらえた小屋根や飾り棚が和の雰囲気をかもしだす玄関ホール



階段の上り口には家のシンボルにもなっている6寸角のヒバの柱が、2階の天井まで伸びている

この家を建てる前は、今と同じ町内に住んでいました。もう古い中古住宅で、あちこち傷んでいましたから、この近辺に土地を求めて新築する計画でし

た。うまい具合にすぐそばに土地が見つかって、いよいよ梅田さんに頼むときがやってきたというわけです。私が家を建てるのは初めてで

したが、私の5人兄弟のうち、3人が梅田さんに建ててもらっているの、初めてという気はしませんでした。兄2人のうち、1人は新築で、1人は一部

増築。弟が新築。今回の私の家で4軒目です。気心知れた梅田さんですので、家族構成（6人家族）を伝えただけで、あとは間取りにしても、部屋の仕上げなんかにしても一切お任せしました。特に要望しなくても梅田さんなら使う木材はヒバに決まっています。柱が見えない大壁の中も、見えないからといって外材を使うのではなく、ヒバ材を使ってくれますからね。

梅田さんの自慢は、作業場の近くにある「倉庫」なんです。倉庫の“中身”ですよ。入ると、ぷーんとヒバのいいにおいがします。ヒバを常に倉庫に確保しておいて、自然乾燥させているんです。柱も間柱も、母屋も桁（けた）も、家に使う木材は自然乾燥させたヒバ。徹底してヒバなんです。

反ったりねじれたり 鉋がけをして平らに

梅田棟梁の話 木を乾燥させれば、反ったり、ねじれたり、割



れたりする。木の中に含まれていた水分が抜けてしまうんだから、その分へこんで、それが反りとか、ねじれとかになる。だから、その部分を、飽がけして、平らにしてやればいい。それが無垢材の使い方なんだ。乾燥が不十分だと、建てたあとに狂いが出る。狂いが出ないようにじっくりと乾燥させるわけだ。人工乾燥器で急激にやるんじやなく、何年もかけて乾かす。自然が一番だ。



天井や壁、引き戸など、至るところに青森ヒバが使用されている

大工職人が扱う素材は「木」だ。木へのこだわりがなくなれば、大工ではなく、業者になってしまうんだ。

ご主人の話 カーポートの柱もヒバの丸太です。5本立っています。このヒバの丸太も梅田さんの倉庫で乾燥させてあったもので、100年物だそうです。これなら頑丈で、いくら大雪で屋根に雪が盛り上がりつつもビクともしないでしょう。

玄関ドアを開けると、目の前



家族や来客を迎えるヒバに囲まれた玄関ホール



カーポートをしっかりと支える100年物のヒバの柱

の、階段の上り口に立っている
太い柱もヒバです。6寸角で、
2階の天井までの通し柱です。
わが家のシンボルですよ。玄関
ホールの腰壁もヒバです。
見上げる2階の天井もヒバ。
和室の入り口の引き戸もヒバ
だし、和室の柱もむろんヒバ。
ヒバに囲まれた暮らしを、私ら
夫婦も、娘夫婦も孫たちも、家
族皆で満喫していますよ。

梅田建設

青森市大字内真部字岸田21
TEL.017-754-3139 FAX.017-754-4522



株式会社 大山建工

ユーザー訪問

八戸市田向
2011年7月竣工

I 様邸

DATA

- 延べ床面積／59.93坪(198.10㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台、外壁一部羽目板)、スギ(柱、天井板など)、アカマツ(梁、床)、ケヤキ(柱)など。



アカマツの丸太を組む ダイナミックな木組み

アカマツの丸太梁を組んだ大山建工の“木組み”の家が、八戸市の田向地区にまた1軒完成した。施主のI様は2年前、同地区に建つ大山建工が施工したI様邸を内覧会で見学し、曲がりのある丸太を寸分違わず組み合わせたダイナミックな造りに惹かれて建築を依頼した。

八角形に角を落とした直径40センチ以上あるアカマツの丸太を交差させて組み合わせた“木組み”。I様邸のその様子は、2階にあるリビングの天井に現しになっている。使っているアカマツは、三戸郡五戸町の山から伐り出した100年物で、同社の加工場(三戸郡五戸町)に運んで加工したものだ。乾燥させたアカマツから光沢ある木肌を引き出し、大工の技で交互に組んでいくことによって、室内空間には無垢材の美しさを、



直径40cm以上ものアカマツの丸太を組み合わせた“木組み”による天井は、大工の技術の高さをうかがわせる

構造には強度を与えている。

木組みとは、木と木を組むことで地震に対する強度を高めた日本人の知恵だ。その方法で建てたのが本来の伝統的な建て方であり、これが木造建築である。口径の大きな、曲がりのある木と木を組むことにより、強さが増す。つい最近まで、曲がり物のアカマツはチップの原料に使われる以外に用途はなかったが、木組みの丸太梁という建築用材として付加価値が付けられたことにより、地産地消の促進へ期待は大きい。

大山建工では、アカマツに限らず、ヒバ、スギ、ケヤキ、クリなど建築に使用する木材はすべて青森県産材である。木材を材木店から買うのではなく、県内の山から原木を調達し加工するので、大山重則社長は、そのこだわりをこう話す。

「地域の山で育った木を使うところに、木のクセを熟知して生かす大工職人の技が磨かれてきました。木造建築は、大工の

手によって古来より継承されてきた日本の文化なのです」

それを継承していくのが地元工務店の義務だ——と信条を強調する。

浮いてくる木の色に味 暮らしの空間を豊かに

1 様邸のリビングが2階にあることと、家のすぐ前を川が流れていることは深い関わりがある。

土地から土堤までは少し距離があつて、しかも土堤から川面までは落差があるために、リビングを1階に設けたのでは、ソファに座りながら、そばを流れている川面を眺めることができない。毎日見える川の流れの風景を暮らしの中に採り入れることが、この土地の利点を生かすことになる。それでリビングは2階、と決めた。

建築というものは、そもそもその土地に合う建物であるべきで、土地の利点を生かすにはどうしたらいいか、という視点



ソファに座って日々移り変わる川面の表情を楽しむようにと、リビングは2階に設けられた



多目的な空間として利用可能な開放的な土間

から追求していくと、その土地ならではの、そこに暮らす人だけの家のかたちとなって現れてくる。

間取りは、施主が考えたと、どうしても子供優先になる。その結果、一番日当たりの良い場所に子供部屋をあてがいがちだが、子供が成長して家を出て行ってしまうと、せつかくの明るい部屋も物置になってしまうケースが多い。大事にすべきは、その家とずっと一緒に暮らす人、つまり施主で、施主

のご夫婦が使う部屋こそ最も条件の良い場所に設定するべきである。I様邸のご夫婦の寝室を、川が眺められる条件の良い東南の角に設けたのは、そうした配慮からだ。

間取りも大事だが、あまり目的に捉われない、多目的な空間“というスペースも必要なものである。それが、I様邸の玄関に入るとすぐにある「土間」だ。



土間に付随し、交流の場としても活用できる客間

土間は無駄じゃないかと思える向きも多いが、使い方によっては幅広い用途がある。I様邸では、外に向けて全開口のサッシを付けているので、庭から運び込んだ鉢植えなどを飾っておく「中庭」にしてもいいし、また和室の客間を付随させてあることから、趣味を披露する交流の場としても使える。

日本の建築の中に、土間は昔からあった。土間があつて、そこ

に台所があつて、作業空間として使っていた。今では土間は削られてしまったが、こういうちよつと無駄と思われがちなスペースを設けておくと、使い方に幅が出る。そのことが暮らしの味わいを豊かにしてくれる。

大山社長はこう加える。「空間だけじゃなく、味わいは、床や柱や梁などの木の色の変化にもあります。時間が経つほ

どに無垢の木肌には色が浮かんできて、暮らしの味わいが深まります。そこが天然の木と工場生産の建材との大きな違いです」

地元の山に育った木と、大工職人の磨かれた技と、それらが融合した木の家——をテーマに、同社では県産材の家づくりをさらに進めていく。

(写真提供/大山建工設計部 黒坂秀紀氏)



やわらかな照明に照らされて、木の風合いが一層高まる

真心こめた仕事づくり

株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

八戸ニュータウン展示場 ●八戸市西白山台3丁目19-14

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001

■第4回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞

